

評価の対象	評価の観点	仮のNo.	評価項目	評価基準・評価の考え方	評価指標	評価に用いるモニタリング項目	関連するモニタリング項目	評価担当WG/AP 要確認	
(1)保全状況(状態)	①世界自然遺産として登録された基準(クライテリア)である知床の生態系及び生物多様性が維持されているか	A	(I) 特異な生態系の生産性が維持されているか(クライテリア(ix)生態系)	海洋生態系の豊かさや多様性を支える植物プランクトンの生育環境を提供する海水の分布状況、プランクトン類を餌資源とする魚類(スケトウダラ)やそれらを捕食する海獣類(トド)等の生物相の状態を遺産登録時の状態と比較	3⑤アザラシ・トド来遊頭数 4海域の生物相、生息密度、分布 5貝類の生息密度、種構成 ④スケトウダラ資源水準・動向 ⑪識別個体を含むシャチの来遊	3アザラシの生息状況の調査 ⑥トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性 4海域の生物相及び生息状況(浅海域定期調査) 5浅海域における貝類定量調査 ④スケトウダラの資源状態把握と評価(TAC設定に係る調査) ⑪シャチの生息状況の調査	2海洋観測パイによる水温の定点観測 ①航空機、人工衛星等による海水分布状況観測 ③「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握 ⑤スケトウダラ産卵量調査 ⑥トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性	海域WG	
		B	(II) 海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されているか(クライテリア(x)生態系)	サケ類が遡上し、持続的に再生産していることやそれらを捕食するヒグマ個体群の状態を遺産登録時の状態と比較 海域の生物相の生息状況、多様性をとおそ登録時(またはデータベースのある時点)と比較	4海域の生物相、生息密度、分布 5貝類の生息密度、種構成 6海鳥の営巣数とコロニー数、特定コロニーにおける急激な変動の有無 16ヒグマ個体数の増減傾向、メスヒグマの人為的死亡数 17サケ類の遡上数(親魚数)、産卵床数、河川工物の遡上及び産卵への影響 22海ワシ類の越冬個体数 ⑧オジロワシつがい数、繁殖成功率、生産力(つがい当たり巣立ち幼鳥数)	4海域の生物相及び生息状況(浅海域定期調査) 5浅海域における貝類定量調査 6ケイマフリ、ウミネコ、オオセグロカモメ、ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査 16知床半島のヒグマ個体群 17河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所・産卵床数及び稚魚降下数のモニタリング 22海ワシ類の越冬個体数の調査 ⑧オジロワシ営巣地における繁殖の成否及び巣立ち幼鳥数のモニタリング	9全道での海ワシ類の越冬個体数の調査	海域WG <連携して評価実施> No.16→エゾシカ・ヒグマWG No.17→河川AP	
		C	(III) 遺産登録時の生物多様性が維持されているか(クライテリア(x)生物多様性)	陸域及び海域における生物群集、生物相、生息密度、分布等の状態や希少種の生息生育状況、外来種の分布状況等を遺産登録時もしくはそれ以前の状態と比較	3アザラシ・トド来遊頭数 4海域の生物相、生息密度、分布 6海鳥の営巣数とコロニー数、特定コロニーにおける急激な変動の有無 8森林植生: 稚樹密度、下枝密度、下層植生の組成・植生高、食痕率・採食量/海岸植生: 群落の組成・植生高、食痕率・採食量 9シトコムシレ個体群の分布状況、追跡個体群の個体数・密度、脅威となる要因 11昆虫相、生息密度、分布、外来種の分布状況 12陸生鳥類相、生息密度、分布、外来種の分布状況 13中小型哺乳類相、生息密度、分布、外来種の分布状況 14植物群落の状況、高層湿原、森林限界及びハイマツ帯の変動 16ヒグマ個体数の増減傾向、メスヒグマの人為的死亡数 18オショロコマの生息数、外来種(淡水魚類)の生息状況、河川水温 23シマフクロウつがい数、繁殖成功率(標識幼鳥数など) ⑧オジロワシつがい数、繁殖成功率、生産力(つがい当たり巣立ち幼鳥数) ⑪識別個体を含むシャチの来遊	3アザラシの生息状況の調査 ⑥トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性 4海域の生物相及び生息状況(浅海域定期調査) 6ケイマフリ、ウミネコ、オオセグロカモメ、ウミウの生息数、営巣分布と営巣数調査 8知床半島全域における植生の推移の把握(森林植生/海岸植生) 9希少植物の生育・分布状況の把握 11陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況の把握 12陸上鳥類生息状況の把握 13中小型哺乳類の生息状況調査 14広域植生図の作成 16知床半島のヒグマ個体群 18淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況(外来種侵入状況調査を含む) 23シマフクロウのつがい数、標識幼鳥数、死亡・傷病個体と原因調査 ⑧オジロワシ営巣地における繁殖の成否及び巣立ち幼鳥数のモニタリング ⑪シャチの生息状況の調査	24年次報告書作成による事業実施状況の把握 25年次報告書作成等による社会環境の把握 ③「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握	エゾシカ・ヒグマWG <連携して評価実施> No.3,4,6,⑧,⑪→海域WG No.18→河川AP ※シマフクロウは保護増殖事業検討会で評価	
(2)環境圧力・観光圧力(状態、動向)	①(新規)知床の世界自然遺産としての価値と関係性があると考えられる要因による影響はみられるか	D	(IV) 気象データ等の変動や傾向から遺産地域における気候変動の兆候はみられるか	気象データ等の変動や傾向から遺産地域における気候変動の兆候はみられるかを評価	18オショロコマの生息数、外来種(淡水魚類)の生息状況、河川水温 26気温、降水量、積雪深等	18淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況(外来種侵入状況調査を含む) 26気象観測 ※気温、地表温、地温については、いくつかの植生プロットとセットで、既存観測施設又はデータロガーによる新規観測による取得を検討	2海洋観測パイによる水温の定点観測 ①航空機、人工衛星等による海水分布状況調査	No.2,①→海域WG No.16→河川AP No.26→科学委	
		E	(V) 気候変動による個体数変動、知床の世界自然遺産としての価値に対する気候変動の影響もしくは影響の予兆はみられるか	気候変動による個体数変動、分布域の変化、生物季節の変化、種間相互作用の変化、群集構造・種多様性の変化が見られるかを評価するとともに、その変化が気候変動によるものなのかを評価	3⑥アザラシ・トド来遊頭数 8森林植生: 稚樹密度、下枝密度、下層植生の組成・植生高、食痕率・採食量、エゾマツの広がり 高山植生: 群落の組成・植生高、食痕率・採食量、ササ類・ハイマツの広がり 14植物群落の状況、高層湿原、森林限界及びハイマツ帯の変動 18オショロコマの生息数、外来種(淡水魚類)の生息状況、河川水温	3アザラシの生息状況の調査 ⑥トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性 8知床半島全域における植生の推移の把握 14広域植生図の作成 18淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況(外来種侵入状況調査を含む) ③「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握 ⑪シャチの生息状況の調査	9希少植物(シトコムシレ)の生育・分布状況の把握 ⑥トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性	No.3,③,⑪→海域WG No.14→エゾシカ・ヒグマWG No.18→河川AP	
		F	(VI) 人為的活動による影響を受けると考えられる事象を対象として遺産登録時の状態又は設定した水準と比較	人為的活動による影響を受けると考えられる事象を対象として遺産登録時の状態又は設定した水準と比較	6 海鳥の営巣数とコロニー数、特定コロニーにおける急激な変動の有無 15 ヒグマによる人身被害の発生件数、危険事例の発生状況、人間側の問題行動の状況、施設の閉鎖状況、ヒグマの有害捕獲数、ヒグマによる農林水産業被害状況 20-資源利用形態の変化、客層の変化、自然環境への懸念 ●登山者による高山植生への悪影響の有無	6 ケイマフリ、ウミネコ、オオセグロカモメ、ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査 15 ヒグマによる人為的活動への被害状況 20-地域住民・観光客アンケート ●登山者による高山植生への悪影響の把握調査	21 各利用拠点等の利用者数 25 年次報告書作成等による社会環境の把握	エコツアーWG <連携して評価実施> No.6→海域WG No.15→エゾシカ・ヒグマWG	
(3)管理/対策	(3-1) 管理の実施状況(実績)	G	(VII) 人の利用による環境影響を可能な限り低減するための管理努力が行われているか	「利用圧」「管理努力」「環境影響」の関係性、相互作用に着目して、一体的・総合的に評価	19 管理と取組の実施状況 20 知床エコツーリズム戦略の基本方針に沿った事業の実施状況	19 適正利用に向けた管理と取組 20 適正な利用・エコツーリズムの推進	21 各利用拠点等の利用者数 24 年次報告書作成による事業実施状況の把握 25 年次報告書作成等による社会環境の把握	エコツアーWG	
			H	(新規) ユネスコ世界遺産センター及びUNESCOによる現地調査に基づく勧告(それぞれの勧告に対する対応の進捗状況は順調か)	勧告に対応する対策事業の実施状況に基づき、各事業の進捗状況を確認	24 勧告に対応する対策事業等の実施実績	24 年次報告書作成による事業実施状況の把握	25 年次報告書作成等による社会環境の把握	海域WG 河川AP エゾシカ・ヒグマWG エコツアーWG
		I	(IV) 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続可能な水産資源利用による安定的な漁業が両立されているか	海洋生態系を特徴付けるアザラシ、トド、シャチといった海棲哺乳類の生息状況や被害実態、漁獲量やスケトウダラの資源状態等から評価	3⑤アザラシ・トド来遊頭数 6海鳥の営巣数とコロニー数、特定コロニーにおける急激な変動の有無 17サケ類の遡上中の親魚数、産卵床数 ④スケトウダラ資源水準・動向 ⑪識別個体を含むシャチの来遊	3アザラシの生息状況の調査 ⑥トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性 6ケイマフリ、ウミネコ、オオセグロカモメ、ウミウの生息数、営巣分布と営巣数調査 17河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所・産卵床数及び稚魚降下数のモニタリング ④スケトウダラの資源状態把握と評価(TAC設定に係る調査) ⑪シャチの生息状況の調査	2海洋観測パイによる水温の定点観測 ①航空機、人工衛星等による海水分布状況観測 ③「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握(※トリを追加) ⑤スケトウダラ産卵量調査 ⑥トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性 ⑦アザラシ・トドの被害実態調査 ⑩海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析	海域WG <連携して評価実施> No.17→河川AP	
			J	(V) 河川工物による影響が軽減される等により、サケ科魚類の再生産が可能な河川生態系が維持・回復しているか	河川工物による影響が軽減される等により、サケ科魚類の再生産が可能な河川生態系が維持・回復していることを検証	17遡上数、産卵床数、河川工物の遡上及び産卵への影響 18オショロコマの生息数、外来種(淡水魚類)の生息状況、河川水温	17河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所・産卵床数及び稚魚降下数のモニタリング 18淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況(外来種侵入状況調査を含む)		河川AP
			K	(VI) 植生に関しては1980年代以前エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないか	植生に関しては1980年代以前エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないことにより評価	7稚樹密度、下枝密度、群落の組成・植生高、開花株数、食痕率・採食量 8森林植生: 稚樹密度、下枝密度、下層植生の組成・植生高、食痕率・採食量 海岸植生: 群落の組成・植生高、食痕率・採食量 10航空機カウント調査による越冬期の発見頭数(発見密度)地上カウント調査による単位距離あたりの発見頭数または指標 11昆虫相、生息密度、分布、外来種の分布状況 12陸生鳥類相、生息密度、分布、外来種の分布状況	7エゾシカ個体数調整実施地区における植生変化の把握(森林植生/草原植生) 8知床半島全域における植生の推移の把握(森林植生/海岸植生) 10エゾシカ主要越冬地における生息状況の把握(航空機カウント/地上カウント) 11陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況の把握 12陸上鳥類生息状況の把握		エゾシカ・ヒグマWG